**第72回（令和8年度）秋期特別総会 病理診断学賞 応募書式**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| (ふりがな)  応募者氏名 | 会員番号:  生年月日:　　　年　　月　　日生まれ　　（　　歳） | | |
| 所属 |  | 職名 |  |
| 所属住所 | 〒  電話: Fax: 電子メール: | | |
| 応募者略歴 |  | | |
| 本学会に  おける受賞歴 | 年、賞の名称、タイトルを記載してください。 | | |
| Pathology Internationalへの総説投稿 | 以下について、ご了承後にチェックを入れてください。  □ 病理診断学賞を受賞した場合、Pathology Internationalへ総説を投稿することを確約します。 | | |
| 病理診断学賞受賞者として病理学会員に呈示したいperspective (専門領域あるいは病理学全般に関して) | | | |

**以上、MS明朝体11ポイントで1ページ以内におさめること。図表不可。**

|  |  |
| --- | --- |
| 演題名 |  |
| 選考用抄録 (1100字以内、MS明朝体11ポイント)  **記述の中で論文として報告しているものについては、業績一覧（４）論文の番号を付すこと。図表不可。** | |

病理診断学賞選考用関連業績一覧

1. 病理診断に関する活動・功績（WHOや取扱い規約委員歴など）

記載例:

１．鈴木一郎　〇〇癌取り扱い規約第〇版　日本〇〇学会・日本病理学会　金原出版　2020年

２．鈴木一郎　診断病理　査読委員　2014-2018年

３．鈴木一郎　Pathology International Editorial Board member 2012-2016

４．Suzuki S WHO classification of tumours 〇〇　3rd Ed. 〇〇〇〇 tumor p101-104 2010

1. 学術講演の経験

（病理診断講習会、一般演題を除く学会発表、特別講演、招待講演など）

記載例:

１．鈴木一郎　日本病理学会〇〇講習会　〇〇の病理　　2020年4月1日

２．鈴木一郎　「〇〇の臨床病理」第〇回日本臨床〇〇学会シンポジウム　2018年4月1日

３．鈴木一郎　日本病理学会サマーフェスト　〇〇の病理　　2026年4月1日

（３）著書　（単著、共著、監修、編集に関わった著書、分担執筆部分など）

記載例:

１．鈴木一郎編　鑑別疾患アトラス　　　〇〇癌　第２版　文光堂　2022年

２．鈴木一郎編　「病理と臨床」特集　〇〇腫瘍　文光堂　2019年

３．鈴木一郎　　「病理学の基礎」　第１２章　〇〇腫瘍　p.100-120 羊土社　2016年

（４）論文　以下の要領・記載例に従って作成してください。

・論文業績（20編以内）を記載してください。原著論文、症例報告、総説を分けて記載してください。

それぞれ、１番を最新のものとして、時系列で降順に示してください。

・著者は省略せず全員を記載してください。

・応募者に下線を付し、太字にしてください。応募者が責任著者の場合には「\*」を付してください。

・掲載誌を太字にしてください。

記載例:

（原著論文）

1. **Suzuki I\***, Tanaka J, Yamada S, Ito S. Expression of ZRRF1 predicts recurrence of invasive ductal carcinoma of the breast. **Pathol Int** 71; 160-165, 2021

2. 田中二郎, **鈴木一郎**, 山田三郎, 伊藤四郎. 浸潤性乳管癌の間質形成と臨床的特性. **診断病理**, 50; 175-180, 2014

（症例報告）

1. **Suzuki I**, Tanaka J, Yamada S, Ito S. A case of invasive ductal carcinoma of the breast with higher expression of ZRRF1 by immunohistochemistry. **Pathol Int** 65; 52-60, 2015

（総説）

2. **Suzuki I\***. Clinicopathological analysis of ZRRF1 in invasive ductal carcinoma of the breast. **Pathol Int** 72; 180-195, 2022